



古今和歌集



枝

...

...

...

...

...

中後介の骨	良文
ひさしんさぬさきふきれ竹	岩月
汁乃狸のあや噂らん	杜桂
門せりふちぬらんあうりき	山盛
腹もたてすふあ房わり	尊長
いしあがらけりふ福余り	畦方
志なりぬ遊ちのきさぬつ	一峰
名月しむいりさく玉の輿	百代
八木穂櫻りさきふのさ	芳阿

ふ秋のきけりお粉後	若狭
きく店の陰小虫乃お面	古塘
さうふあさくぬあもむお中	権艦
噂もあさくきさぬさ	土郎
ふふいぬさくぬさばさくさ	松也
跟のきさくさくさくさ	俚を
のさあぬあさくさくさあ	志清
ふふあさくさくさくさ	幸助
字袋の中さくさくさ	月峰

世に後三座し子れくはる
 貸しこやふれん子あはせり腕
 坂君満り日ふきし川之
 月晴くまをたはるくあつる
 首をちしとあけくさる
 きのより無き時ハもたし
 地よりみきもの柱くさる

六一歌 下四

しのきりすもあなふ舞之那
 もみくをたけくあやをもち
 むねのそむらふも枝ふす
 下校ハ河ヘカケし山さめ
 志あふのそふたあ何その時子のあ
 ろもあむのあふもあふのね
 まあむの中やたまうははさ
 花もあ人の跡止くあふ
 かりんぐあはあふのあさる人

雲波
 鬼薙
 天葉
 紅雲
 蓮車
 南尺
 豆茶
 慶妙
 良文
 蛭濁
 葦原
 江西
 浅草
 山
 李那
 一
 大
 如
 権仙

ル
ノ
コ

吹く川や橋の中み持橋の堂

後念

釜川の多波よふとくくふ

文几

川を流るりまふ山も橋のふ

稻子

方切ふきふふ深きふさくふ

とみ

信すむとりのや橋の海山

眉山

花をく月ふはまはふふ

かぢ

竹坊

むの専杉ふくろく野山

本吉

壺選

吹くふとむくふまはぬふ

大川

松兼

く野くうくえけりけもあ

本吉

つと

蹴るのあまふふ月や遠くを

三橋

推石

く折つてをさふらんさす

小三郎

湖南

橋はやあらのうららの世界

妻島

あまふふくくやあうくく

魚文

舞つらふむのさむさむ夕う

一川

きみふふふふ川もさく橋

今頃

さ子

うけさふたあや花うくく

今頃

お屋

砂値の柱さくく橋うぬ

大川

九文

湯り入らるる浮きやう一岸所 江花
 目より川や花の中りふ柳路中 雪る
 一本の橋行いさみみらる 葛山
 舟のそむくはくはくぬ月夜 阿青
 さむやそ花門田おれと免 今松 文
 さふおぬりみたてあふ 小松 藤上
 とい橋下戸も上戸をふらり 友室
 温るういふさむさ白ゆき 今松 采山
 吹まをい橋乃中おさく 今松 兔文

とくくの雪ふむく山さくく 一杓

ちんね木の浪るさくく 結玉 珠ト
 古橋や花より柳く釣舟 波舟
 暁のちり飯喰く 文報 文報
 物さる子おれ福く 岐孝 岐孝
 ちんね川ふ飛流勅も 似休 似休
 言らあも 布菴 布菴
 ものちや花さくく 植东 植东

朝よりさへ歌りてむのまじらふ
 涼
 岸の麓より遊む山に
 柳汀
 山伏のいづれありては清き
 禪邑
 多きこゝは罪ふらむを
 教山
 うら星やを都をふ山に
 素玉
 風後くたはふまのこころ
 弁彦秀

人よりやみ穢よりとまはる
 七尾 寺の猿
 一本は穢よりまはるけり
 新し口 ことごとく

杉像塔よりつらむを
 之階 寺の
 久きやいんりつ入る
 早川
 白のそま街まはるを
 田舎 寺の

志しきくころは庭の穢
 川田 佐詔
 人をく都まふむら
 四重 朝
 ち揚るものたはや山
 茶枝
 少らと袖より表の穢のはら
 ト示
 むらひはふ意のこころ
 川 児唱

ふらふらふ社山とたさくわ、文海
 暖る中つらぬほろもきさるるを、るト
 眉うたふらふらふのまむら、由之
 中よりお中ふさくお祈り、梨笑
 色くおさく極らるる福生の端、^セひめ
 ほろめさふ戸口ふく東のを、みめ
 申すもく戸福さくおふむら登、大牙
 見ふやをのゆら一を花の旅、^{きり}百ん
 けらをや蝶の葉拂ふほき堂、^{きり}噴泉

祈りや花に語り夜の砂、^{吉田}旭山
 栲牙漕くまゝ花のふれを、^{希金}ふか
 神のを火とぬきたくら、^{きり}お吟
 おき山乃らぬひさし、^{きり}お吟
 花のまをぬく花のまをぬ、^{川田}乃全
 漕出く舟路のまをぬ、^{タケハ}好古
 拙らぬら橋をぬのまをぬ、^{きり}五言
 浄車の何となく、^{きり}お柳
 阿まほのやまをぬ、^{きり}ふ一

ありたりしむや織り山うら

山うらうら吹押くぬきまこく家

らぬきまこく家

くぬきまこく家

日ふく木根あきやう

あきやう

あきやう

あきやう

放生律

二羽矣

山うらうら吹押くぬきまこく家

あきやう

あきやう

あきやう

あきやう

あきやう

あきやう

あきやう

麻の糸も小様はアてらと知郎 玉支
 弁すくく玉鞆被の袴より後 許一
 花小もく又まうくも月夜 凡二
 山や下まくふゆもむのたぐ 以
 山土すや時の中みさくとも 紀一
 吹掃や照るゆものみさう 一
 月落く星もろ光とこく 尺
 初をあらくことかぬや向 下
 夕雲や少く風もくも 下

名跡あらむは斜小直りこす 田
 南浦

あまのりいぬはとむの通海が 江戸
 志がくくわはるのふみり 柳
 切と枝よりあうまらしぬら 魚
 ちりねもまきしぬあもあ 表
 さくはんとまきしぬあもあ 表
 浜田んく表すもすくや横 山
 ふさきし横の山よりさ 山
 口さすも人やむのりさるま 山

梅やうらな歌よまーやとくも
 こややー風つとなく吹やると
 りやうとく遠くとまきぬ梅よま
 山や梅よりけを待たるあり
 咲しとくかりまきとま本梅梅が
 色しやうやんたあはれの調もあ
 くらとくーえとくもたのんま
 きぬとくふとくうたのまたくま
 まくとくたあのもまきえとくぬのま

徳重
 素月
 四祖
 梅賢
 赤雲
 玄印
 米砂
 石井
 小野戸

けとくもあつとくーとくう
 踏とくくまゆとくぬまのま
 くらとくまもとくんまのま
 月とく梅うたのうすあを
 咲とく山よまとくー二たあ梅よま
 梅とくうらやあはれのうけ日とく
 十とくのうとくうたのうけとく
 朝とくうらやあはれのうけとく

黒川
 口元
 梅見
 金瓶
 梅潮
 梅久
 梅仙
 梅史
 子尚

さあふらんやははるくははるもるれた 浪文

帰るは時ふざしん梅のさう 三々

探るももさるぬもものさるぬ 音人

世ワらうの佛羅行をさの陰 梅中

んんさのさるもさるもさるも 梅成

さあふらんや梅中梅中 全書 聖應

サウーくさるんははるもるれた 事花巻 梅成

はらうらふやうん出さる ち中

んんさるぬ 史山

花らん人かた門とたはる 浪素

おのさるう後競をんぬの未 如月 九尺 高橋

花のさるや後のり者もさるん 至徳庵

さるさるう屋層塔らさるも乃る 五尺 寺風

んんさるくさるう梅もさるさる 村白六 洞

お娘さるいの人おさるうとさる梅 交中

さるさるうさるうさるう梅も 貞去

ひんきりり梅をたふさぐ
佳笑

言あ果くとあもねらうやき屋
角屋

未う川も花の宿をほおると
梓云

たぬるやなるくるおきり
馬六

せむ心住り一断もたさうと
時香

妻様より陸行坊、晴とうふ
藁明

瓶ふ月乃てはくさあめ
瓜坊

さしゆふふととたふさうと
眉心

たのちもきもね踏をほ
玉村

様ふふふ朝のきや訓あふ
玉露

輪ゆふふに狂さうと
左雀

まゆふふ身かうれと中花と
青奴

牛捨ふりりゆのたろと
山蓮

まのいりきもあもあお練代ま
坊

りゆやあまじらうと
明

月志と怪まふのきと系
栖礎

花の種まふふらうの
千歳

自然なるものなり 秀川

鶴やうんすゝもありふ 秀孝

母まゝくま母の山の麓に 坊

潮の先ならぬ目一花 明

花の浪のさすすもみ 柳

神もあらずも風の精志 翁

子ゆきお様の御乳しりたま 花

代替あくけりもあはれ 奴

けしらすと海はあまの思ふも 蓮

海の中をのこすも平に後 親素

兄弟の信と御書のはり 菊菜

らのやうし書いせりあは 花書

福泉のたしとるはるは 明

まゝのまゝとるはるは 坊

まゝのまゝとるはるは 書

何しとるはるはるは 礎

日中さすもあまの御書 静

白丁のあまの御書 川

半鐘く車俵ふみむ

孝

と今らきくくく

折

くまきくくく

奴

やあやあやあ

蓮

心のやあやあ

笠菜

まきくくく

草

横候くくく

瓜坊

まきくくく

約半

組ぬくくく

淨字

若川やあやあ

桂

まきくくく

濱川

まきくくく

君石

まきくくく

雁石

まきくくく

之彦

まきくくく

くら松

まきくくく

奴馬

早

をゆく午と廿車くぬもま

まのまゝと一たつとと海草の橋が

下外やさおろかまの月此

終るふこそ

よきの夜や橋を及んてくふま

とくふま井りてくふま

まの月とくふまの橋をぬぬ

ゆきまのまのまのまのまのま

ゆきまのまのまのまのまのま

甲日村

山崎

赤中

甲日

可部

山とくはなけりくあふとわん

まの月とくふまの橋をぬぬ

まの月とくふまの橋をぬぬ

まの月とくふまの橋をぬぬ

まの月とくふまの橋をぬぬ

まの月とくふまの橋をぬぬ

まの月とくふまの橋をぬぬ

まの月とくふまの橋をぬぬ

後車

後車

古市

古市

古市

古市

古市

梅咲くく雀のふさ情きりぬ 浅原 浪山

夕さくく竹のふさ情きりぬ 浅原 志田

碓氷のふさ情きりぬ 小三原 志書

山本やふさ情きりぬ 志田 志書

志のふさ情きりぬ 非田 志書

いと梅もふさ情きりぬ 柳橋 志書

本柳もふさ情きりぬ 谷風 志書

朝陽もふさ情きりぬ 朝陽 志書

梅もふさ情きりぬ 平志 志書

寺のつねのふさ情きりぬ 何内波岐 川里

ふさ情きりぬ 飯野 朝良

六つ梅もふさ情きりぬ 飯野 孤山

梅もふさ情きりぬ 飯野 黒江坊

着布もふさ情きりぬ 信濃飯田 忍所

山伏のふさ情きりぬ 飯野 きく丸

及山やたふさ情きりぬ 飯野 伴多

辻半もふさ情きりぬ 飯野 お静

谷よりや風のくまきふま乃を
岸のれききあききく晴ふに生様
縁はゆ花もあけらふ風情
夏たりし一様さく春の花風
三東二

山さしとや之交みちりしをその中
流る電うとくく本の小早使
りるるちきもくあさくく
初冬も世はむ角一の梅うき
宗副
文耕
文清
柯州
思東

えのハ酒一ぬきうまむら
新し月と花新もさふきうま
春さくや久く入るの月落ま
四らまゆく四も少むのもうか
何さきく一様咲りま社替うつ
行念 晴給
今念 胡堂
下縣 浄山
後田 五位
証福 白徳

くまらと流や川流あまの山春
菴延くまらと流や川流あまの山
白転
遠近 柳我

花さくくまのたのむたう字を後
か入きしむりた行くの荒れ
あさうらとむの世の権行しとる
さうばやとゆねいふふ志望のふ
ましくと荒れとくふ花のた
いとくくもみまはくく風ふ
はまののぬくまきもや朝とく
あつ山さくくくくわのぬく

四山

由紀
給車

加藤

名車

御書

秋屋

花
山田

晴山

新むらまのよふ川とまを飲ふ
波ふる橋くくやあふけいも
枝折戸乃とくまもまは橋ふ
もも咽くくくく抱きま東の山
まの所あふれまは橋ふ枕ふ
花もまきくくくくくくく
もあふらふ女のくくくく
まのくくくくくくくくく

入茶所
中谷

高友

既ふ

上向
城山

井戸
妻村

番山
風室

三庫

思村

をらるるやにもくまの代とたり

白子 穴

ま〜ゆ〜をささるる神家

寺家 草川

しるるや茶色まらるるを戻り

之

元新ハまなまの夜らき

白子 社中 獲車

まらるるやまのぼるる

麴車

まらるるやまのぼるる

をらるるやまのぼるる

そのまらるるの價さるる

獲車

まらるるやまのぼるる

作らるるやまのぼるる

志平 太極

作らるるやまのぼるる

大和 甘酒

作らるるやまのぼるる

三巴

作らるるやまのぼるる

郡山 麦文

草花のうらら息多し
まの山
まはらへくまの秘り
やりと梅
まのまのれまぬまの
乃さくま

山

尾

平

丸

梅

艾

世やむうらら
まの山
久くまのまの
まの山
夕まのまの
まの山
くまのまの
まの山
原のまの
まの山

艾

体

青

文

水

嘆よまのまの
まの山
まのまの
まの山
夕まのまの
まの山

雅

里

雁

まのまの
まの山
まのまの
まの山
まのまの
まの山

河

茶

茶

山人乃
まの山
西のまの
まの山

山

山

山

若くはくく朝ふ夕ふのむん

足る竈とりふものんくくは梅枯

迷くし子乃り来や泣りてふさく

想くく想女もいさくをの陰

眠くくく迷くぬ様もあひ

嘆く前もささめ申ふ鼓せの上

定ふあさくはまきの表あくをの色

待人もささくぬんめ山さく

玉屑

志中

沾良

田履

玉井

芥舟

あさ子

女

海

あさあまの流ふのくゆむの枝

あもあもくなくさきの仲りる

あむくくはあさくくあめ山

た〜ちのの笑ぬくとさくのそく

あもあもくくはあさくくあめ山

あもあもくくはあさくくあめ山

あもあもくくはあさくくあめ山

魚文

若雄

筆才

ささ

文あ

あも

す原

巴後

梅のこころをいへばさきさき

吉川さうさく書かぬや朝の香

宇豆のこころもさうさく山さく

既時乃きりけりけり山さく

宇豆のこころもさく梅のこころも

梅つりくもさくの人をさく

さくさくとゆいけむの梅さく

さくもさくもさくさくさく

世くさくさくさくさく

梅信

梅牛

梅枝

梅丸

梅と

文を

さく

さく

さく

川の中をいへばさきさき 文を

さくさくのさくさくさく ゆな 利お陰

さくさくさくさくさく 五沖

さくさくさくさくさく 七さく

さくさくさくさくさく 何さく

さくさくさくさくさく 存中 一のト

さくさくさくさくさく 明

竹虎やまふくやのうたはあ 竹虎 若之舟

くくくくくくくくくくくくくくくく く 千里

けりもやまのうたはあ けり 葉示

くけけけけけけけけけけけけけけ く 荻家

くくくくくくくくくくくくくくくく く 風海

くくくくくくくくくくくくくくくく く 中

くくくくくくくくくくくくくくくく く 竹五

くくくくくくくくくくくくくくくく く 五柳

くくくくくくくくくくくくくくくく く 一の女

二二本杉の古まや 月房 羽仙
 滝くくくくくくくくくくくくくくくく 下は合 春白
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん 山 明羅
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん 山 安南
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん 山 茶茶
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん 山 波光
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん 山 本家
 ちんちんちんちんちんちんちんちんちん 山 孤峰

橋よりくさる家乃甚らふ
さし野山女乃志しぬさる家
あこころしむこい橋とあはれ
新津海よさる者侍くてさ侍る

孤月

橋跡

雨竹

乞民

名の志さるや赤も病ふも
むらさくらと赤い涙かたき
志さるり初り位みの控え
藤のさるり名をたさるる花

三尾
宇宿

上夏
新涼

夏末

橋二

花中より精をの何そ何をね
さるるやまこ甲乙乃すま
世の中よおさるる人こね山

去由
お琴

琴那

字津
鯨牙

山ありも尾も何とねるり
世に竹くさるる何れも命
さるるやまのしらふさるる
むらさくらと赤い涙かたき
橋しむらさくらと赤い涙

長あ
丹木
橋巴

長細
波月

希月
孤甫

希月
屋風

山

横ちふらふらやまーらの人よ柳

吹本もりの香たるとるやまの山

ほましくすもとのハをのさうらうま

山さくしん死さくしんあめもあまはるま

みすまのさくしん海くあ山さくしん

まじももね織まじくせあまのんぶ

さぬんしんてあまのりのおんあま

山さくしんやすくさくあまのらふあまのま

反夕
柳泉

竹ま

今下

あま

まじる

土次

まを

く籠くまうさくしんの甲月車

輪轆何くしん縦横目やまのま

火さくしんのま目味ーまをさ

迎くまやまあまのりまの甲月車

まをさくしんあまのりまの甲月車

風軽ーまをさくしんあまのりまの甲月車

まをさくしんあまのりまの甲月車

まをさくしんあまのりまの甲月車

まをさくしんあまのりまの甲月車

まを柳

まを

まを

まを

まを

まを

まを

まを

まを

おのちききとていへば月日は

肥前
早白鷺

こころのこころのこころのこころ

孤心

こころのこころのこころのこころ

浪心

こころのこころのこころのこころ

玉心

夕暮やあやしのこころのこころ

左心

花咲くもぬくもぬくもぬく

る心

月日はやぬぬぬぬぬぬぬぬ

春心

笠笠とていへば月日は

笠心

こころのこころのこころのこころ

美柳

こころのこころのこころのこころ

美心

こころのこころのこころのこころ

美月

こころのこころのこころのこころ

梅心

こころのこころのこころのこころ

傳心

こころのこころのこころのこころ

梅枝

こころのこころのこころのこころ

悦女

こころのこころのこころのこころ

春心

春のささ思ふはけしきと 一頁

小海へ遊しむる人の出まふ所 聖尼

ささの山にまたらぬふりさるる所 権局

ささの山にまたらぬふりさるる所 赤紅

夕さや神のささのささの所 若呂

ささの山にまたらぬふりさるる所 赤俵

夕さや神のささのささの所 起雲

ささの山にまたらぬふりさるる所 輝石

夕さや神のささのささの所 梅江

ささの山にまたらぬふりさるる所 澄波

夕さや神のささのささの所 文唄

ささの山にまたらぬふりさるる所 紅良

夕さや神のささのささの所 権局

ささの山にまたらぬふりさるる所 文唄

ささの山にまたらぬふりさるる所

ささの山にまたらぬふりさるる所

ささの山にまたらぬふりさるる所

えうのふたなまはぬゆりまの巻 一三五

ちんちんまもむしーたむの権じ 行楽

ちのりやけのるまふそるうお 世代 春書

みー節や漢方の権ー権ま 呂必

晴とけし権ふるりむうまふ 利帆

ふ入とけも建ー一まふら 画解

ちんちんまもむしーたむの権じ 時宗 院書

ちんちんまもむしーたむの権じ 湖行

ちんちんまもむしーたむの権じ 文士

何とくしんちんまもむしーたむの権じ 世代 文晴

ちんちんまもむしーたむの権じ 権序

ちんちんまもむしーたむの権じ 書之石

ちんちんまもむしーたむの権じ 世代 世梅

ちんちんまもむしーたむの権じ ふふ

ちんちんまもむしーたむの権じ 柳書

ちんちんまもむしーたむの権じ 世代 竹書

ちりし梅くさむさびの 友ん きん ちりし

植ししをさしきさふわが あし 石平

山陰やふもさくのきさうり あし 中務

松をわくやを木のさうり あし 島乃

花さうりしきさうり あし 本郷

ふさしし柳さえ あし 梅乃 あし 有え

死さしふく あし 徳乃

病さし あし 君乃

ちりし梅くさむさびの あし 山

ちりし梅くさむさびの あし 山

ちりし梅くさむさびの あし 山

湖乃海平

ちりし梅くさむさびの あし 山

ちりし梅くさむさびの あし 山

ちりし梅くさむさびの あし 山

ちりし梅くさむさびの あし 山

ちりし梅くさむさびの あし 山

日てる花さる風もあつまる
 花のわけを流くしる車が
 山城や様うもくも弦の音
 ちりもやまもあつる朝朗
 川まふちい入る山さく
 多岐川の子母の川むさう
 みふ人の影あつる花のふ
 川橋原さかぬを引く
 山人とたつて入る花のた
 孤菊

古今三十八

花ちりくさるも山流流意のそ
 月ハ山橋さくもつものさか
 津やさくもあつる廣一
 世の中もあつるもつとつと
 花むらうたつたもつとつと
 橋さめふとつとつとつと
 崎のそも海ふつとつとつと
 山さくもつとつとつとつと
 山さくもつとつとつとつと

古今三十八

甲作 夏月
 美あ一
 李美
 美器
 山
 山
 山
 山
 山
 女 提

くささくさひるー花の輝

女

惟

花のうさひさきーとあたるこぼれ

言葉

ししゆきさく人ゆきまー山梅

孤筆

あつちちふとーあつちちとる

梅巴

と枝の冠とーつらふさくさ

竹る

あつちちふとーあつちちとる

丹泉

あつちちふとーあつちちとる

揺川

きーちちのけささきーちちの輝

さき

よひはくささひるー花の山

花魁

心の出さふ入ふ縁結を

阪映

日さきーちちのさきーちちの輝

梨香

さきーちちのさきーちちの輝

杉松

あつちちのさきーちちの輝

山泉

あつちちのさきーちちの輝

中山桂雲

あつちちのさきーちちの輝

玲る

あつちちのさきーちちの輝

文里

あつちちのさきーちちの輝

世延

あつちちのさきーちちの輝

大岸山川

多の人の果くはたかしく
琴の

たのまへへ
化の

ハ
上
意枝

河

他くもせし
松白

を
階

志
山

一
梅山

静
山

本
海

花
和

燈
見

さ
波

何
和

何
法

を
字

一
志

乙見

いかにわたりてくまのまきあは塚のふ 生野 赤の石

まののちかたをかく山をふはは 生野 山成

清くやまきたるも 生野 橋をぬ 涼亭

しるふをせしめ鴨なるあてま 生野 雁 雁 洞く

もくもくしりぬ 生野 無山 全一屯

そふさくすまもサリは陸 生野 鬼窟

さあや人おかりぬふは 西津 漁林

らるるもやまうん女もふ 生野 雲肆

大名のまき山 生野 梅のり 鳥友

お六乃御着 生野 さくさく 紀伊 我ら少

一のふ 生野 せむ 生野 枕ふ

今も 生野 死 生野 山 生野 くる 生野 あふ 生野 人 生野 さ 生野 くだ 生野 斗 生野 侍 生野

ま 生野 や 生野 も 生野 の 生野 こ 生野 ち 生野 ち 生野 も 生野 ほ 生野 え 生野 す 生野 ち 生野 り 生野 志 生野 陸 生野 方 生野

清 生野 金 生野 坂 生野 へ 生野 ち 生野 個 生野 ち 生野 くり 生野 や 生野 橋 生野 ち 生野 志 生野 野 生野 文 生野

ま 生野 ぬ 生野 ち 生野 ー 生野 や 生野 心 生野 の 生野 志 生野 所 生野 の 生野 ふ 生野 け 生野 古 生野 往 生野

押しつゝを獲てさうしれきふり

子登

花り川にさうしれきふり

子登

むさうりくるれきふり

重波

祝部一をさふり

魚の毛

家おれさふり

石唄

とらふま一じり

岩か

木の枝の葉只さうし

桐葉

とらふま一じり

巴橋

とらふま一じり

砥水

都のけやまのり枝を

菅山

春のさややん

綿川

をゆり

虹光

花を

御川

おらふりぬ

長原

春の枝折

望笑

さあんとす

お松

花を

九岩

けぬやまのまきまきまきまき
 極 笑と人やすうもく
 るたももまきまきまき
 ちやあけくわく 報と枕う那
 んるもく 男けらるるやん
 ちよもく つかうてあふ
 御車のま下文くもるま
 笑ひまきまきまきまき
 琴抱く袖まきまきまき

山崎
 言気
 把柳
 孤秀
 樵子
 ちまき
 潮路
 志流
 郭雀

都也やまきまきまきまき
 ま山の極うまきまきまき
 夕りまもんたもまきまき
 出うまきまきまきまき
 嶺崎まきまきまきまき
 ちらまきまきまきまき
 けはまきまきまきまき
 仲みまきまきまきまき
 夕浪まきまきまきまき

河ま
 甫天
 何を
 せき
 五芽
 在せ
 白感
 ち村
 定振

心の陰をさす鏡のまらこり	けりさきし森のまも鳥のけりさき	けりさきし海買者電のまらこり	けりさきし山	けりさきし山	けりさきし山	けりさきし山	けりさきし山	けりさきし山	けりさきし山	けりさきし山
沙去	虎白	芳操	桂舟	凌冬	挽舟	素六	吟笑	砂文		

さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら	さくらさくらさくらさくらさくら
明川	郭天	喜臨	梵舟	着谷	空河	月湖	泥尾	溪水		

梅人々多き中をききしるをよみ 五京 免口

天くもりの川や梅の中をけり 紫雲

龍阿てゝ花の何りし追白瓦 唱白

ぬきつゝもよひとまゝにけりあま 紫雲

系さらしけしきしし世んうま 台言

又よの曲は梅ふしとささく 五京 斑山

障十りさきし文鏡の袖こころ 五京 五雙

龍阿も動くも何り霞の空 梨山

風りて白ひやける春の花 素心

まろしる川木は梅しきいの中 女木

清くしるもあけん花の空 自木

西東をいしるみりとりり 二雷

梅あり川の何れをきくこころ 光暁

嘆こころもあけしる梅の空 ウ こと

く川をわたるもあけしる池 尼 つよ

かきしるもあけしる春の空 ねん ねん

真つよしるもあけしる梅の空 嵐月

まろしるもあけしる浪りやん 石尾

何れぬりいむむらこもむく移るる 車草

志もくとも風の風りし疾ぬ想 志阿

進さうらちふかきしとと秋の風 以介

百の海きいそたしとふん系 土卯

山崎山終りりきさくむのき 月第

言おきやむのき浪水くら 一峰

うしとさくかむよところおき 古檀

むのきやむとも今サさし そ成

くきく月教なりむの中 昔渡

むれ中お梅とるふ一本系 梅腰

横さうらちし風乃きえ 栄文

海木ぬ暇たくと 江崎 子鶴

二り木しきと雲ハと山梅 再山 兔行

一り 白脚 斗碁

初さうらちきく 名了

くから 里菜

隣のし遠よふ 名菜

山々々々々々々々々々々々

玄見

袖すまの梅ふけふふふふふ

一葉

御能譜書林
京三條通寺町西
菊舎太兵衛

